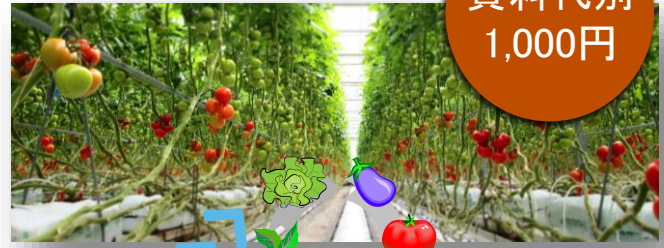


参加  
無料資料代別  
1,000円

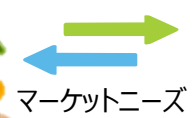
# 農業生産の価値を高めるGAP

【主催】一般社団法人日本施設園芸協会  
 【事務局】愛媛大学植物工場研究センター  
 【後援】日本生物環境工学会 四国支部・生物生体計測部  
 会・施設生産システム部会、生態工学会 中国四  
 国支部、農業情報学会 施設生産情報部会

【開催趣旨】「Good Agricultural Practices(GAP)は、農業生産の環境的・経済的及び社会的な持続性に向けた取り組みであり、結果として安全で品質の良い食品及び非食品の農産物をもたらすもの」(GLOBAL G.A.P協議会のHPより抜粋)とされています。たとえば、GLOBAL G.A.Pは、安全な農産物を目指す基準と手続きを定めたプロトコルを明確化したものであり、国際認証制度により、現在では世界80カ国以上・10万件を超える認証件数がある世界標準G.A.P.となっています。国際競争力のある農作物生産を目指す植物工場では、G.A.P.は必要不可欠なものであると考えられます。本セミナーでは、G.A.P.の基礎、わが国の学術面・政策面でのG.A.P.の取り組み、国際展開する企業におけるG.A.P.の意義、そして、地域におけるG.A.P.のあり方について議論します。

ニーズに  
応じた生産

消費地へ(輸出)



マーケットニーズ

2017.

## 2/21 [火] 13:30 ~17:10

愛媛大学農学部 大会議室

松山市樽味3-5-7

司会: 高山弘太郎  
 (愛媛大学大学院農学研究科・植物工場研究センター 准教授、  
 日本学術会議連携会員)

植物工場研究センター見学 13:30~14:15

講演 14:20~17:10

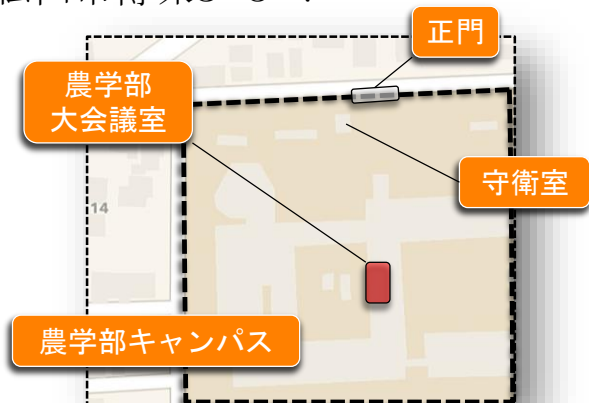
1 G.A.P.の基本と必要性  
 羽藤 堅治  
 (愛媛大学大学院農学研究科 教授、愛媛大学植物工場研究センター 副センター長)

2 わが国の学術面・政策面でのG.A.P.の取り組み  
 澁澤 栄  
 (東京農工大学大学院農学研究科 教授、日本学術会議第二部  
 会員・農業情報システム学学科会委員長)

休憩

3 イオンアグリ創造におけるG.A.P.への取り組み  
 岡 和美  
 (イオンアグリ創造株式会社 品質管理室長)

4 地域におけるG.A.P.のあり方  
 胡 柏  
 (愛媛大学大学院農学研究科 教授)



- ❖ 伊予鉄バス 8 番線「愛大農学部前」下車
- ❖ 駐車可能数はわずかですので公共交通機関をお使い下さい。

## 参加申込・お問合せ先

- ❖ 参加申込HP:  
<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo1/mpmailec/form.cgi>
- ❖ 問い合わせ: 高山・高橋 (事務担当 西野)  
 (愛媛大学 農学部・植物工場研究センター)  
 E-mail: zinzai@agr.ehime-u.ac.jp